

平成25年度 財政状況資料集

総括表（市町村）

都道府県名	新潟県		市町村類型	Ⅲ-1	指定団体等の指定状況		区分		平成25年度(千円)	平成24年度(千円)	区分		平成25年度(千円・%)	平成24年度(千円・%)
					財政健全化等	×	歳入総額	55,010,643			54,595,477	実質収支比率		
市町村名	三条市		地方交付税種地	1-4	財源超過	×	歳入総額	53,200,170	50,212,913	経常収支比率	93.1	92.0	(101.6)	(100.1)
					首都	×	歳入歳出差引	1,810,473	4,382,564	(※1)				
					近畿	×	翌年度に繰越すべき財源	986,181	1,015,226	標準財政規模	24,556,812	23,978,087		
					中部	×	実質収支	824,292	3,367,338	財政力指数	0.62	0.62		
人口	22年国調(人)	102,292	産業構造(※5)		中部	×	単年度収支	-2,543,046	3,158,988	公債費負担比率	18.7	17.6		
	17年国調(人)	104,749			過疎	×	積立金	10,170	6,382	健全化判断比率				
	増減率(%)	-2.3			山振	○	繰上償還金	-	17,654	実質赤字比率	-	-		
住民基本台帳人口(※6)	26.01.01(人)	102,489	区分	22年国調	17年国調	低開発	×	積立金取崩し額	6,383	2,630	連結実質赤字比率	-	-	
	うち日本人(人)	102,082		2,135	2,949	指数表選定	×	実質単年度収支	-2,539,259	3,180,394	実質公債費比率	14.4	14.2	
	25.03.31(人)	102,957	第1次	4.3	5.4					将来負担比率	144.0	176.1		
	うち日本人(人)	102,544		第2次	18,105	20,985					資金不足比率(※4)			
	増減率(%)	-0.5			36.3	38.6								
	うち日本人(%)	-0.5	第3次	29,612	30,316									
面積(km ²)	432.01	59.4		55.8										
人口密度(人/km ²)	237													
世帯数(世帯)	32,467													
職員の状況														
特別職等	区分	定数	1人あたり平均給料月額(百円)	区分	職員数(人)	給料月額(百円)	1人あたり平均給料月額(百円)	地方債現在高	69,283,906	65,063,775				
	市区町村長	1	9,180	一般職員	815	2,526,500	3,100	うち公的資金	35,476,067	34,250,282				
	副市区町村長	1	7,070	うち消防職員	151	443,034	2,934	債務負担行為額(支出予定額)	12,345,327	11,788,721				
	教育長	1	5,990	うち技能労務職員	126	391,482	3,107	収益事業収入	-	-				
	議会議長	1	4,580	教育公務員	11	43,395	3,945	土地開発基金現在高	-	-				
	議会副議長	1	3,970	臨時職員	-	-	-	財政調整基金	4,863,576	1,559,789				
	議会議員	24	3,690	合計	826	2,569,895	3,111	減債基金	457,163	457,163				
					ラスパイレス指数			93.2	積立金現在高	4,808,026	3,442,685			
								その他特定目的基金						
一般会計等の一覧	事業会計の一覧	公営企業(法適)の一覧	公営企業(法非適)の一覧	関係する一部事務組合等一覧	地方公社・第三セクター等一覧									
項番	会計名	項番	会計名	項番	項番	項番	項番	項番	組合等名	項番	団体名			(※3)
(1)	一般会計	(3)	国民健康保険事業特別会計	(6)	水道事業会計	(7)	農業集落排水事業特別会計	(9)	新潟県三条・燕総合グラウンド施設組合	(19)	三条昭栄開発			
(2)	勤労者福祉共済事業特別会計	(4)	介護保険事業特別会計			(8)	公共下水道事業特別会計	(10)	三条地域水道用水供給企業団	(20)	県央土地開発公社			
		(5)	後期高齢者医療特別会計					(11)	三条・燕・西蒲・南蒲広域養護老人ホーム施設組合	(21)	下田郷開発			
								(12)	新潟県市町村総合事務組合【一般会計】	(22)	燕三条地場産業振興センター			
								(13)	新潟県市町村総合事務組合【職員退職手当支給事業特別会計】					
								(14)	新潟県市町村総合事務組合【消防団員等公務災害補償事業特別会計】					
								(15)	新潟県市町村総合事務組合【消防費しゅつ金支給事業特別会計】					
								(16)	新潟県市町村総合事務組合【非常勤職員公務災害補償等特別会計】					
								(17)	新潟県市町村総合事務組合【交通災害共済事業特別会計】					
								(18)	新潟県後期高齢者医療広域連合【一般会計】					

(注釈) ※1：経常収支比率の()内の数値は、「減収補償(特例分)」及び「臨時財政対策債」を除いて算出したものである。
 ※2：各会計の一覧は主な会計(10会計まで)を記載している。
 ※3：地方公共団体が損失補填等を行っている出資法人で、健全化法の算出対象となっている団体については、「地方公社・第三セクター等」の団体名に○印を付与している。
 ※4：資金不足比率欄には、資金が不足している会計のみ記載している。
 ※5：産業構造の比率は、分母を就業人口総数とし、平成22年国調は分類不能の産業を除き、平成17年国調は分類不能の産業を含んでいる。
 ※6：住民基本台帳関係年報の調査基準日変更に伴い、平成25年度の住民基本台帳人口については、平成26年1月1日現在の住民基本台帳に記載されている人口を記載している。

(1) 普通会計の状況(市町村)

歳入の状況(単位:千円・%)					地方税の状況(単位:千円・%)				
区分	決算額	構成比	経常一般財源等	構成比	区分	収入済額	構成比	超過課税分	
地方税	13,216,648	24.0	12,794,289	56.3	普通税	12,754,905	96.5	178,147	
地方譲与税	381,393	0.7	381,393	1.7	法定普通税	12,754,905	96.5	178,147	
利子割交付金	25,779	0.0	25,779	0.1	市町村民税	5,688,826	43.0	178,147	
配当割交付金	39,417	0.1	39,417	0.2	個人均等割	139,791	1.1	-	
株式等譲渡所得割交付金	60,859	0.1	60,859	0.3	所得割	4,162,362	31.5	-	
地方消費税交付金	1,051,279	1.9	1,051,279	4.6	法人均等割	305,921	2.3	-	
ゴルフ場利用税交付金	18,416	0.0	18,416	0.1	法人税割	1,080,752	8.2	178,147	
特別地方消費税交付金	-	-	-	-	固定資産税	6,031,160	45.6	-	
自動車取得税交付金	104,215	0.2	104,215	0.5	うち純固定資産税	6,008,921	45.5	-	
軽油引取税交付金	-	-	-	-	軽自動車税	245,788	1.9	-	
地方特例交付金	48,720	0.1	48,720	0.2	市町村たばこ税	789,131	6.0	-	
地方交付税	9,292,219	16.9	8,040,119	35.4	釧産税	-	-	-	
普通交付税	8,040,119	14.6	8,040,119	35.4	特別土地保有税	-	-	-	
特別交付税	1,252,049	2.3	-	-	法定外普通税	-	-	-	
震災復興特別交付税	51	0.0	-	-	目的税	461,743	3.5	-	
(一般財源計)	24,238,945	44.1	22,564,486	99.3	法定目的税	461,743	3.5	-	
交通安全対策特別交付金	20,299	0.0	20,299	0.1	入湯税	39,384	0.3	-	
分担金・負担金	529,522	1.0	-	-	事業所税	-	-	-	
使用料	382,914	0.7	61,012	0.3	都市計画税	422,359	3.2	-	
手数料	382,773	0.7	-	-	水利地益税等	-	-	-	
国庫支出金	9,240,979	16.8	-	-	法定外目的税	-	-	-	
国有提供交付金(特別区財調交付金)	-	-	-	-	旧法による税	-	-	-	
都道府県支出金	3,635,681	6.6	-	-	合計	13,216,648	100.0	178,147	
財産収入	57,753	0.1	23,709	0.1					
寄附金	16,809	0.0	-	-					
繰入金	59,365	0.1	-	-					
繰越金	1,082,564	2.0	-	-					
諸収入	6,307,211	11.5	48,421	0.2					
地方債	9,055,828	16.5	-	-					
うち減収補填債(特例分)	-	-	-	-					
うち臨時財政対策債	2,073,028	3.8	-	-					
歳入合計	55,010,643	100.0	22,717,927	100.0					

区分		平成25年度		平成24年度	
徴収率	現・計	98.9	94.0	98.9	93.8
(%)	年	99.2	95.9	99.2	95.5
		98.6	91.6	98.5	91.5

公営事業等への繰出		国民健康保険事業会計の状況	
合計	4,518,415	実質収支	-329,063
下水道	1,499,200	再差引収支	-460,324
上水道	183,090	加入世帯数(世帯)	13,693
工業用水道	-	被保険者数(人)	24,039
交通	-	被保険者	91
国民健康保険	532,123	1人当り	95
その他	2,304,002	保険税(料)収入額	264
		国庫支出金	95
		保険給付費	264

(注釈)

普通建設事業費の補助事業費には受託事業費のうちの補助事業費を含み、
 単独事業費には同級他団体施行事業負担金及び受託事業費のうちの単独事業費を含む。

歳入の状況(単位:千円・%)					
目的別歳入の状況(単位:千円・%)					
区分	決算額(A)	構成比	(A)のうち普通建設事業費	(A)のうち充当一般財源等	
議会費	285,091	0.5	-	285,090	
総務費	4,184,905	7.9	168,839	3,204,106	
民生費	12,297,605	23.1	383,152	6,621,170	
衛生費	2,869,384	5.4	128,944	2,137,239	
労働費	296,142	0.6	1,351	68,507	
農林水産業費	1,010,215	1.9	335,229	848,486	
商工費	6,825,298	12.8	627,337	610,695	
土木費	5,489,938	10.3	2,990,775	2,936,256	
消防費	1,403,373	2.6	87,459	1,377,069	
教育費	9,248,530	17.4	6,681,178	2,811,930	
災害復旧費	2,229,998	4.2	-	244,780	
公債費	5,662,732	10.6	-	5,518,910	
諸支出費	1,396,959	2.6	-	1,396,603	
前年度繰上充用金	-	-	-	-	
歳出合計	53,200,170	100.0	11,404,264	28,060,841	

性質別歳入の状況(単位:千円・%)					
区分	決算額	構成比	充当一般財源等	経常経費充当一般財源等	経常収支比率
義務的経費計	20,716,200	38.9	14,864,586	14,657,973	59.1
人件費	8,049,014	15.1	6,916,790	6,724,136	27.1
うち職員給	4,663,319	8.8	4,222,550	-	-
扶助費	7,008,810	13.2	2,433,242	2,419,283	9.8
公債費	5,658,376	10.6	5,514,554	5,514,554	22.2
元利償還金	5,655,664	10.6	5,511,842	5,511,842	22.2
内 うち元金	4,835,697	9.1	4,702,766	4,702,766	19.0
訳 うち利子	819,967	1.5	809,076	809,076	3.3
一時借入金利子	2,712	0.0	2,712	2,712	0.0
その他の経費	18,849,708	35.4	11,417,414	8,423,101	34.0
物件費	4,626,519	8.7	3,755,821	3,494,790	14.1
維持補修費	630,082	1.2	588,449	583,850	2.4
補助費等	1,925,771	3.6	1,666,823	520,340	2.1
うち一部事務組合負担金	164,344	0.3	144,186	115,380	0.5
繰出金	4,335,325	8.1	3,930,744	3,745,928	15.1
積立金	1,411,418	2.7	1,396,604	-	-
投資・出資金・貸付金	5,920,593	11.1	78,973	78,193	0.3
前年度繰上充用金	-	-	-	-	-
投資的経費計	13,634,262	25.6	1,778,841	-	-
うち人件費	261,992	0.5	261,992	-	-
内 普通建設事業費	11,404,264	21.4	1,534,061	-	-
うち補助	7,902,353	14.9	354,536	-	-
うち単独	3,463,447	6.5	1,176,292	-	-
災害復旧事業費	2,229,998	4.2	244,780	-	-
失業対策事業費	-	-	-	-	-
歳出合計	53,200,170	100.0	28,060,841	-	-

(2) 各会計、関係団体の財政状況及び健全化判断比率（市町村）

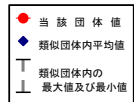
平成25年度 新潟県三上市

一般会計等の財政状況(単位:百万円)

会計名	歳入	歳出	形式収支	実質収支	他会計等からの繰入金	地方債現在高	備考
1 一般会計	55,760	53,960	1,800	885	17	69,351	
2 勤労者福祉共済事業特別会計	23	13	11	11	2	-	
3							
4							
5							
6							
7							
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							
16							
17							
18							
19							
20							
21							
22							
23							
24							
25							
26							
27							
28							
29							
30							
31							
32							
33							
34							
35							
36							
37							
38							
39							
40							
41							
42							
43							
44							
45							
46							
47							
48							
49							
50							
51							
52							
53							
54							
55							
56							
57							
58							
59							
60							
61							
62							
63							
64							
65							
66							
67							
68							
69							
70							
71							
72							
73							
74							
75							
76							
77							
78							
79							
80							
81							
82							
83							
84							
85							
86							
87							
88							
89							
90							
91							
92							
93							
94							
95							
96							
97							
98							
99							
100							
101							
102							
103							
104							
105							
106							
107							
108							
109							
110							
111							
112							
113							
114							
115							
116							
117							
118							
119							
120							
121							
122							
123							
124							
125							
126							
127							
128							
129							
130							
131							
132							
133							
134							
135							
136							
137							
138							
139							
140							
141							
142							
143							
144							
145							
146							
147							
148							
149							
150							
151							
152							
153							
154							
155							
156							
157							
158							
159							
160							
161							
162							
163							
164							
165							
166							
167							
168							
169							
170							
171							
172							
173							
174							
175							
176							
177							
178							
179							
180							
181							
182							
183							
184							
185							
186							
187							
188							
189							
190							
191							
192							
193							
194							
195							
196							
197							
198							
199							
200							
201							
202							
203							
204							
205							
206							
207							
208							
209							
210							
211							
212							
213							
214							
215							
216							
217							
218							
219							
220							
221							
222							
223							
224							
225							
226							
227							
228							
229							
230							
231							
232							
233							
234							
235							
236							
237							
238							
239							
240							
241							
242							
243							
244							
245							
246							
247							
248							
249							
250							
251							
252							
253							
254							
255							
256							
257							
258							
259							
260							
261							
262							
263							
264							
265							
266							
267							
268							
269							
270							
271							
272							
273							
274							
275							
276							
277							
278							
279							
280							
281							
282							
283							
284							
285							
286							
287							
288							
289							
290							
291							
292							
293							
294							
295							
296							
297							

(3) 市町村財政比較分析表(普通会計決算)

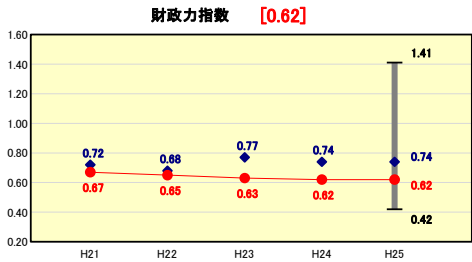
人口	102,489人 (H26.1.1現在)	実質赤字比率	- %
うち日本人	102,082人 (H26.1.1現在)	連結実質赤字比率	- %
面積	432.01 km ²	実質公債費比率	14.4 %
歳入総額	55,010,643千円	将来負担比率	144.0 %
歳出総額	53,200,170千円	市町村類型	H21 III-1 H22 III-1 H23 III-1
実質収支	824,292千円	(年度毎)	H24 III-1 H25 III-1
標準財政規模	24,556,812千円		
地方債現在高	69,283,906千円		



※市町村類型とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類したものである。当該団体と同じグループに属する団体を類似団体と言う。
 ※平成26年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体ごとの決算に基づく実質公債費比率及び将来負担比率を算出していない団体については、グラフを表記しない。
 ※充当可能財源等が将来負担額を上回っている団体については、将来負担比率のグラフを表記しない。
 ※類似団体内平均値は、充当可能財源等が将来負担額を上回っている団体を含めた加重平均であるため、最小値を下回ることがある。
 ※「人件費・物件費等の状況」の決算額は、人件費、物件費及び維持補修費の合計である。ただし、人件費には事業費支弁人件費を含み、退職金は含まない。
 ※住民基本台帳関係年報の調査基準日変更に伴い、平成25年度の住民基本台帳人口については、平成26年1月1日現在の住民基本台帳に登録されている人口を記載している。

財政力

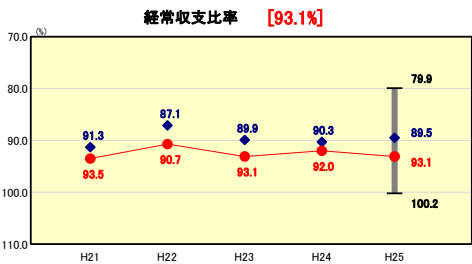
類似団体内順位 62/88 全国平均 0.49 新潟県平均 0.51



財政力指数の分析欄
 新経営戦略プログラムに基づき財政基盤の強化を図っているものの、類似団体平均を大きく下回っており、近年の数値は横ばいで推移してきている。今後も新経営戦略プログラムに掲げる歳出入改革等の対策を着実に実施し、財政の健全化に努めていく。

財政構造の弾力性

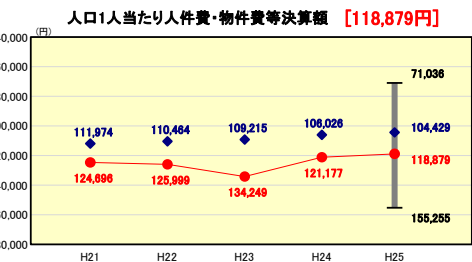
類似団体内順位 67/88 全国平均 90.2 新潟県平均 89.7



経常収支比率の分析欄
 新市建設計画記載事業の進捗による合併特例債等の元利償還金や社会保障関係経費の増加により、類似団体平均を上回っている。今後も、人件費の削減や公債費負担の適正化等、これまでの取組を継続し、行政評価などを活用しながら現在取り組んでいる事業の費用対効果や市民ニーズを考慮し、更なる検証を加え経常経費の削減に努める。

人件費・物件費等の状況

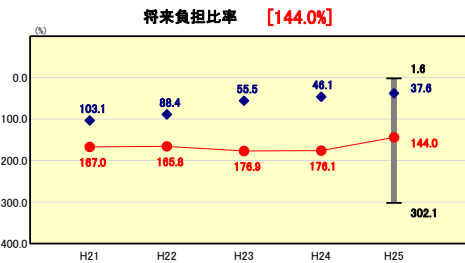
類似団体内順位 76/88 全国平均 116,268 新潟県平均 139,958



人口1人当たり人件費・物件費等決算額の分析欄
 定員適正化計画による職員削減により着実にコストの削減を図ってきているものの、依然類似団体平均を上回っており、今後も引き続き定員適正化計画による職員削減の実施、指定管理者制度の導入など業務の外部委託化を進め、コストの低減を図っていく。

将来負担の状況

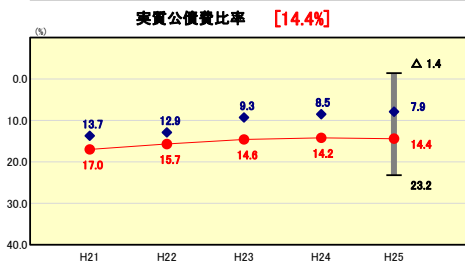
類似団体内順位 84/88 全国平均 51.0 新潟県平均 107.4



将来負担比率の分析欄
 退職手当率の改正により退職手当見込額が減少したことから将来負担額が減少し、剰余金を財源とした財政調整基金への積立等により充当可能基金が増加したことに加え、合併特例債等の増加により基準財政需要額算入見込額が増加したことに伴い将来負担比率が改善された。しかし、依然類似団体平均を上回っており、今後も定員適正化計画に基づく定員の適正化や公債費負担適正化計画に基づく事業の見直しなどにより、起債発行額を抑制する。

公債費負担の状況

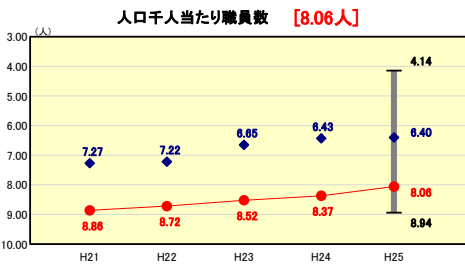
類似団体内順位 82/88 全国平均 8.6 新潟県平均 12.7



実質公債費比率の分析欄
 下水道事業の公債費充当財源繰出金が多額になることや新市建設計画記載事業の進捗による合併特例債等の償還により類似団体平均より高い14.4%となっている。今後は公債費負担適正化計画に基づく事業の見直しや、下水道事業の公債費充当財源繰出金の抑制などにより、公債費の抑制を図る。

定員管理の状況

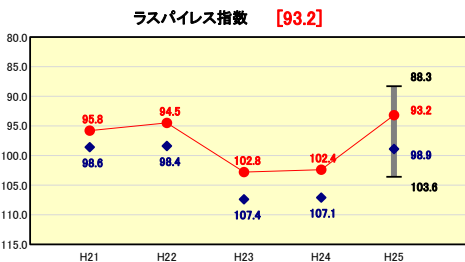
類似団体内順位 78/88 全国平均 6.96 新潟県平均 8.47



人口千人当たり職員数の分析欄
 類似団体平均を上回っているものの、定員適正化計画を策定し将来の職員構成や財政状況を考慮した必要最小限の職員採用を行っており、平成25年度は対前年度比で0.31ポイントの減となった。今後も新経営戦略プログラムに基づき業務の効率化を図るなど、引き続き職員数の削減に努める。

給与水準 (国との比較)

類似団体内順位 4/88 全国市平均 98.6 全国町村平均 95.6



ラスパイルズ指数の分析欄
 類似団体平均を下回っている。今後も昇級・昇格制度の適切な運用などにより引き続き給与の適正化に努める。

(4)-1 市町村経常経費分析表(普通会計決算)

平成25年度

新潟県三条市

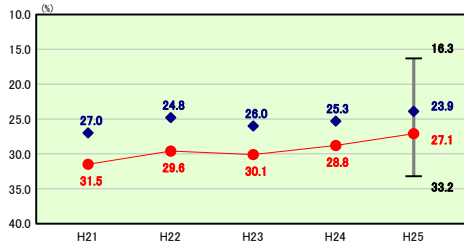
経常収支比率の分析

人口	102,489	人(H26.1.1現在)	突 實 赤 字 比 率	-	%
うち日本人	102,082	人(H26.1.1現在)	連 結 突 實 赤 字 比 率	-	%
面積	432.01	km ²	突 實 公 債 費 比 率	14.4	%
歳入総額	55,010,643	千円	得 茶 負 担 比 率	144.0	%
歳出総額	53,200,170	千円	市 町 村 類 型	H21 Ⅲ-1 H22 Ⅲ-1 H23 Ⅲ-1	
実収支	824,292	千円	(年 度 毎)	H24 Ⅲ-1 H25 Ⅲ-1	
標準財政規模	24,556,812	千円			



※ 市町村類型とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類したものである。当該団体と同じグループに属する団体を類似団体と言う。
 ※ 住民基本台帳関係年報の調査基準日変更に伴い、平成25年度の住民基本台帳人口については、平成26年1月1日現在の住民基本台帳に登録されている人口を記載している。

人件費

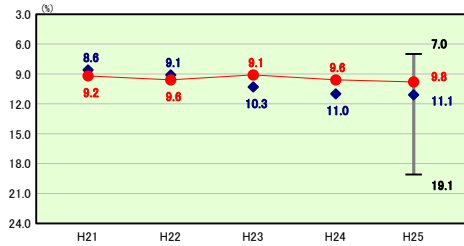


類似団体内順位 70/88 **全国平均** 23.7 **新潟県平均** 22.3

人件費の分析欄

人件費は前年比較で1.7%減の効果を上げている。定員適正化計画による職員数の削減等のコスト削減の効果が、現れていることが考えられる。一方で団塊世代の職員の退職時期を迎え、今後退職手当が多額に上ることが予想されるため、退職手当債により負担を平準化し、今後も引き続き、比率の抑制を図っていく。

扶助費

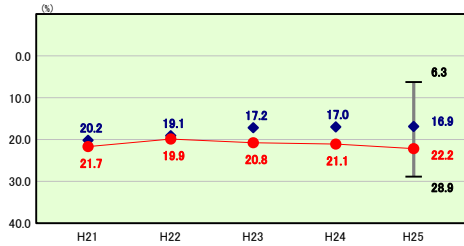


類似団体内順位 26/88 **全国平均** 11.3 **新潟県平均** 8.7

扶助費の分析欄

前年度より0.2%増加したものの、類似団体を下回った。今後も、障がい者自立支援給付費、生活保護費の増加などが見込まれるが、執行の適正化等による抑制に努める。

公債費

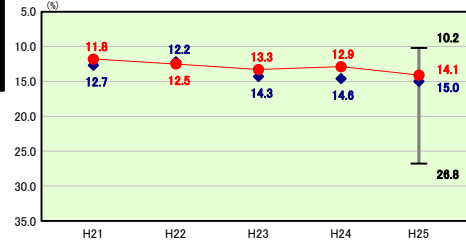


類似団体内順位 78/88 **全国平均** 18.6 **新潟県平均** 20.1

公債費の分析欄

新市建設計画掲載事業の進捗による償還費の増などから、公債費に係る経常収支比率は類似団体平均を上回っている。新経営戦略プログラムや公債費負担適正化計画に基づき、新市建設計画掲載事業を見直すなど、起債発行額を抑制した結果、ほぼ横ばいとなっているが今後は合併特例債の償還等により比率が増加していくことが考えられる。

物件費

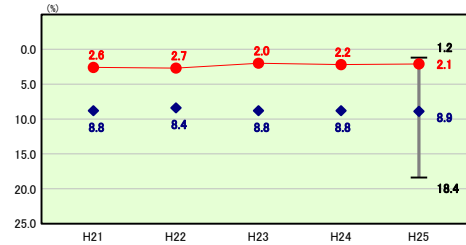


類似団体内順位 38/88 **全国平均** 13.7 **新潟県平均** 13.6

物件費の分析欄

物件費は前年度比較で、1.2%増加した。原因としては指定管理者制度の導入などによる指定管理料や民間委託による学校給食調理等業務委託料の増加などがある。引き続き、指定管理者への業務委託事業を進めつつ、「業務の改善・効率化」により業務の無駄を排除し物件費の抑制に努める。

補助費等

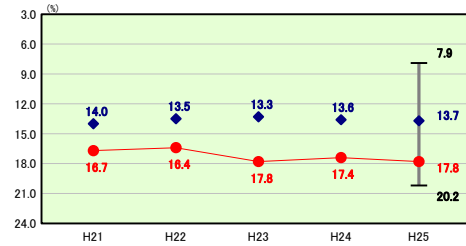


類似団体内順位 2/88 **全国平均** 10.0 **新潟県平均** 9.1

補助費等の分析欄

補助費等に係る経常収支比率が類似団体平均を大きく下回っているのは、平成17年5月1日の市町村合併に伴う一部事務組合の解散により、一部事務組合に対する負担金が大きく減少したためである。今後も、補助費等の支出にあたっては、対象事業の実施内容、効果等の検証を行うとともに、必要な見直しを行うなど、適正な執行に努める。

その他

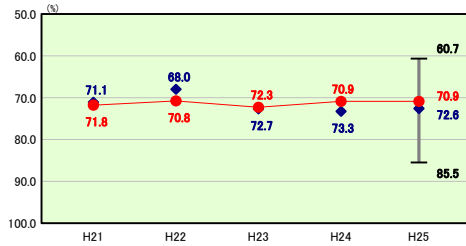


類似団体内順位 80/88 **全国平均** 12.9 **新潟県平均** 15.9

その他の分析欄

その他に係る経常収支比率が類似団体平均を上回っているのは、繰出金の増加が主な要因である。今後、下水道事業経営健全化計画に基づく使用料収入等の確保・事業費の節減等により適正化を図り、普通会計の負担額を減らして行くよう努める。

公債費以外



類似団体内順位 34/88 **全国平均** 71.6 **新潟県平均** 69.6

公債費以外の分析欄

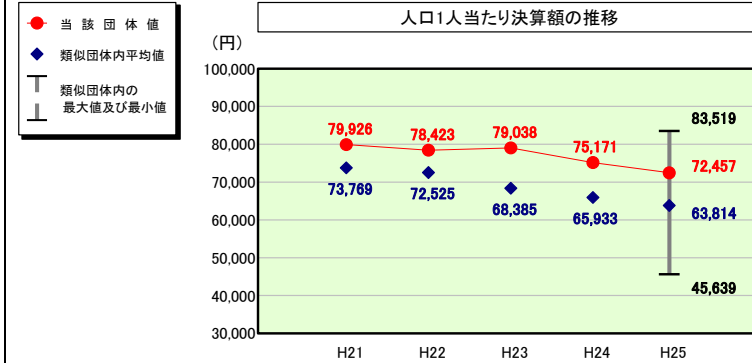
前年から横ばいとなっている。今後も引き続き、事業の優先度や必要性、費用対効果等を勘案しながら、事業費の抑制などに努める。

(4)-2 市町村経常経費分析表(普通会計決算)

平成25年度

新潟県三条市

人件費及び人件費に準ずる費用の分析



人件費及び人件費に準ずる費用

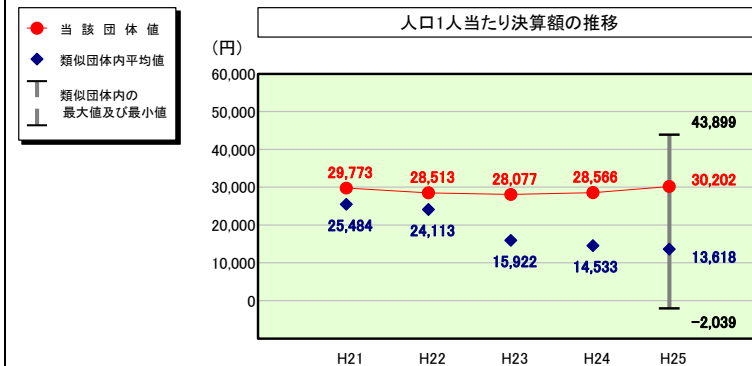
	当該団体決算額 (千円)	人口1人当たり決算額		
		当該団体(円)	類似団体平均(円)	対比(%)
人件費	8,049,014	78,535	58,402	34.5
賃金(物件費)	221,423	2,160	4,003	▲46.0
一部事務組合負担金(補助費等)	96,785	944	3,781	▲75.0
公営企業(法適)等に対する繰出し(補助費等)	-	-	598	-
公営企業(法適)等に対する繰出し(投資及び出資金・貸付金)	-	-	1	-
公営企業(法非適)等に対する繰出し(繰出金)	180,666	1,763	2,386	▲26.1
事業費支弁に係る職員の人件費(投資的経費)	261,992	2,556	1,344	90.2
▲退職金	▲1,383,831	▲13,502	▲6,701	101.5
合計	7,426,049	72,457	63,814	13.5

参考

	当該団体	類似団体平均	対比(差引)
人口1,000人当たり職員数(人)	8.06	6.40	1.66
ラスパイレズ指数	93.2	98.9	▲5.7

(注) 住民基本台帳関係年報の調査基準日変更に伴い、平成25年度の住民基本台帳人口については、平成26年1月1日現在の住民基本台帳に登録されている人口を記載している。

公債費及び公債費に準ずる費用の分析

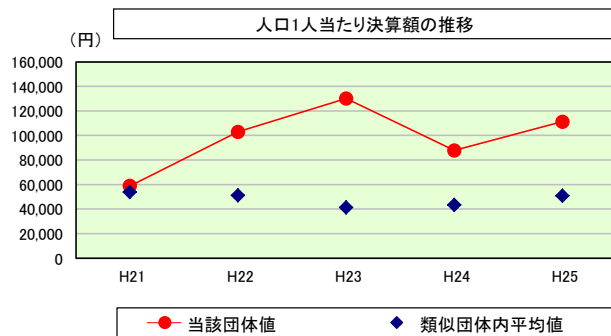


公債費及び公債費に準ずる費用(実質公債費比率の構成要素)

	当該団体決算額 (千円)	人口1人当たり決算額		
		当該団体(円)	類似団体平均(円)	対比(%)
元利償還金の額 (繰上償還額等を除く)	5,439,438	53,073	38,473	37.9
積立不足額を考慮して算定した額	-	-	-	-
満期一括償還地方債の一年当たりの元金償還金に相当するもの (年度割相当額)	133,333	1,301	31	4,096.8
公営企業に要する経費の財源とする地方債の償還の財源に 充てたと認められる繰入金	1,386,068	13,524	10,015	35.0
一部事務組合等の起こした地方債に充てたと認められる 補助金又は負担金	83,114	811	1,507	▲46.2
公債費に準ずる債務負担行為に係るもの	209,142	2,041	1,079	89.2
一時借入金利子 (同一団体における会計間の現金運用に係る利子は除く)	380	4	5	▲20.0
▲特定財源の額	▲466,887	▲4,555	▲7,129	▲36.1
▲地方債に係る元利償還金及び準元利償還金に要する経費として 普通交付税の額の算定に用いる基準財政需要額に算入された額	▲3,689,204	▲35,996	▲30,363	18.6
合計	3,095,384	30,202	13,618	121.8

※平成26年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体ごとの決算に基づく実質公債費比率を算出していない団体については、グラフを表記しない。

(参考) 普通建設事業費の分析



普通建設事業費

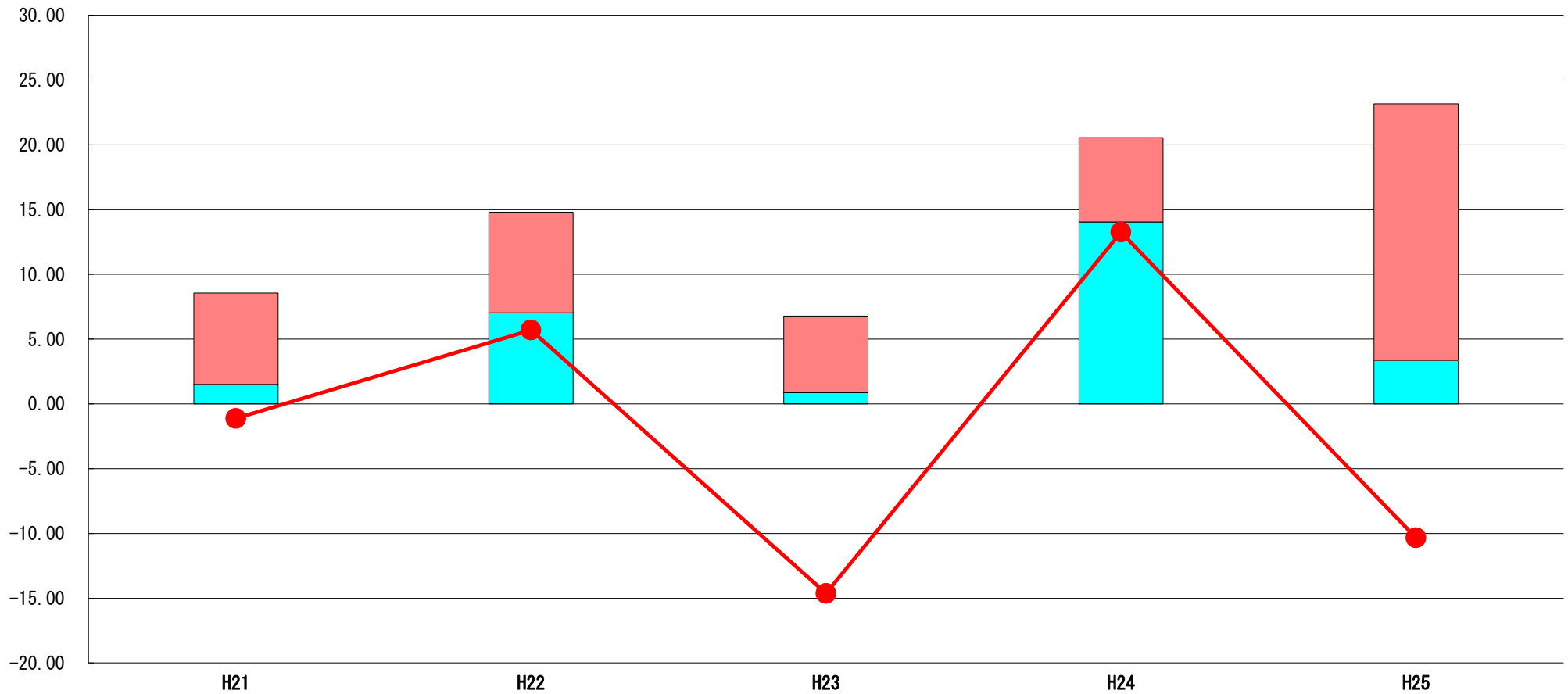
	当該団体決算額 (千円)	人口1人当たり決算額				
		当該団体(円)	増減率(%) (A)	類似団体平均(円)	増減率(%) (B)	(A)-(B)
H21	6,189,297	59,015	11.2	53,925	7.7	3.5
うち単独分	4,655,686	44,392	1.2	34,260	13.9	▲12.7
H22	10,717,624	102,920	74.4	51,263	▲4.9	79.3
うち単独分	6,158,609	59,141	33.2	29,061	▲15.2	48.4
H23	13,450,955	130,195	26.5	41,433	▲19.2	45.7
うち単独分	3,420,494	33,108	▲44.0	22,351	▲23.1	▲20.9
H24	9,036,590	87,771	▲32.6	43,493	5.0	▲37.6
うち単独分	4,256,407	41,342	24.9	23,254	4.0	20.9
H25	11,404,264	111,273	26.8	50,840	16.9	9.9
うち単独分	3,463,447	33,793	▲18.3	25,367	9.1	▲27.4
過去5年間平均	10,159,746	98,235	21.3	48,191	1.1	20.2
うち単独分	4,390,929	42,355	▲0.6	26,859	▲2.3	1.7

(5) 実質収支比率等に係る経年分析（市町村）




平成25年度

新潟県三条市

標準財政規模比（%）



標準財政規模比（%）

区分	年度	H21	H22	H23	H24	H25
 財政調整基金残高		7.05	7.76	5.91	6.51	19.81
 実質収支額		1.50	7.03	0.87	14.04	3.36
 実質単年度収支		▲ 1.12	5.71	▲ 14.63	13.26	▲ 10.34

分析欄

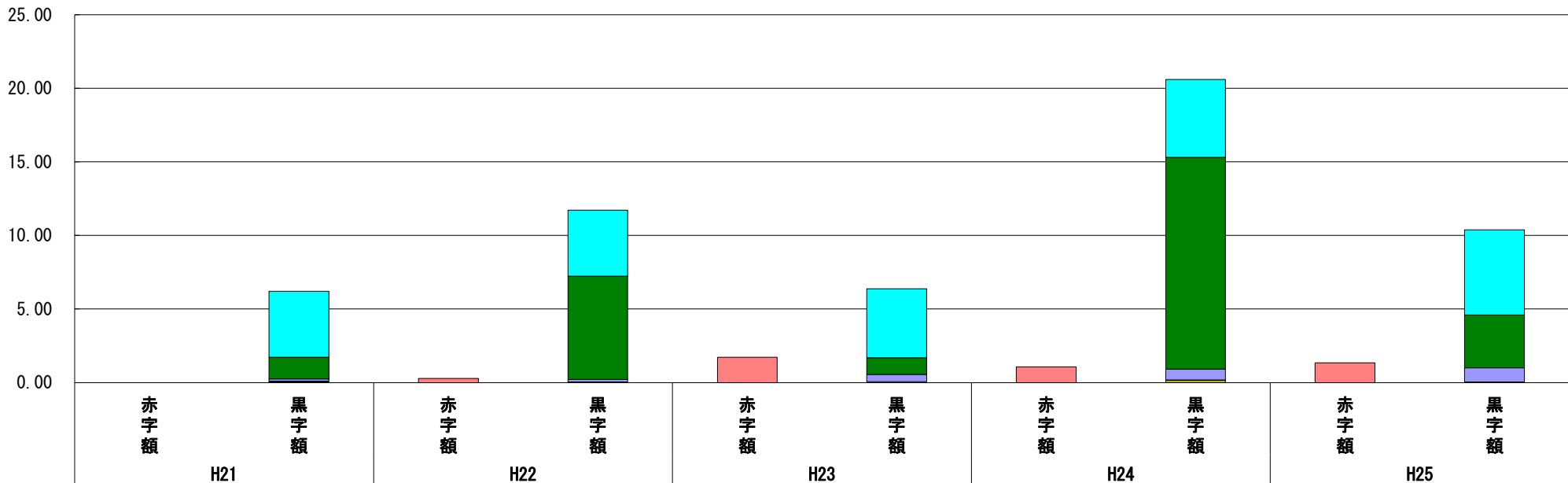
市税収入や地方交付税の増加、入札等による適正な予算執行により予算執行残額が発生したため、歳入と歳出の差である決算余剰金を財源とした財政調整基金への積み立てを行ったことから残高が増加した。
 一方、新市建設計画登載事業の進捗による元利償還金の増加や震災復興特別交付税が減少したことに伴い実質収支額が減少した。今後も公債費の増が想定されていることから引き続き新経営戦略プログラムに掲げる歳出入改革等の対策等を着実に実施し、財政の健全化に努めていく。

(6) 連結実質赤字比率に係る赤字・黒字の構成分析（市町村）

平成25年度

新潟県三条市

標準財政規模比（％）



標準財政規模比（％）

会計	年度	H21	H22	H23	H24	H25
国民健康保険事業特別会計		0.00	▲ 0.28	▲ 1.72	▲ 1.08	▲ 1.34
水道事業会計		4.49	4.48	4.69	5.28	5.78
一般会計		1.47	7.02	1.13	14.41	3.60
介護保険事業特別会計		0.16	0.16	0.48	0.72	0.95
勤労者福祉共済事業特別会計		0.04	0.04	0.05	0.05	0.04
後期高齢者医療特別会計		0.01	0.01	0.02	0.13	0.01
農業集落排水事業特別会計		0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
公共下水道事業特別会計		0.00	0.00	0.00	0.01	0.00
その他会計（赤字）		-	-	-	-	-
その他会計（黒字）		0.04	0.00	-	-	-

分析欄

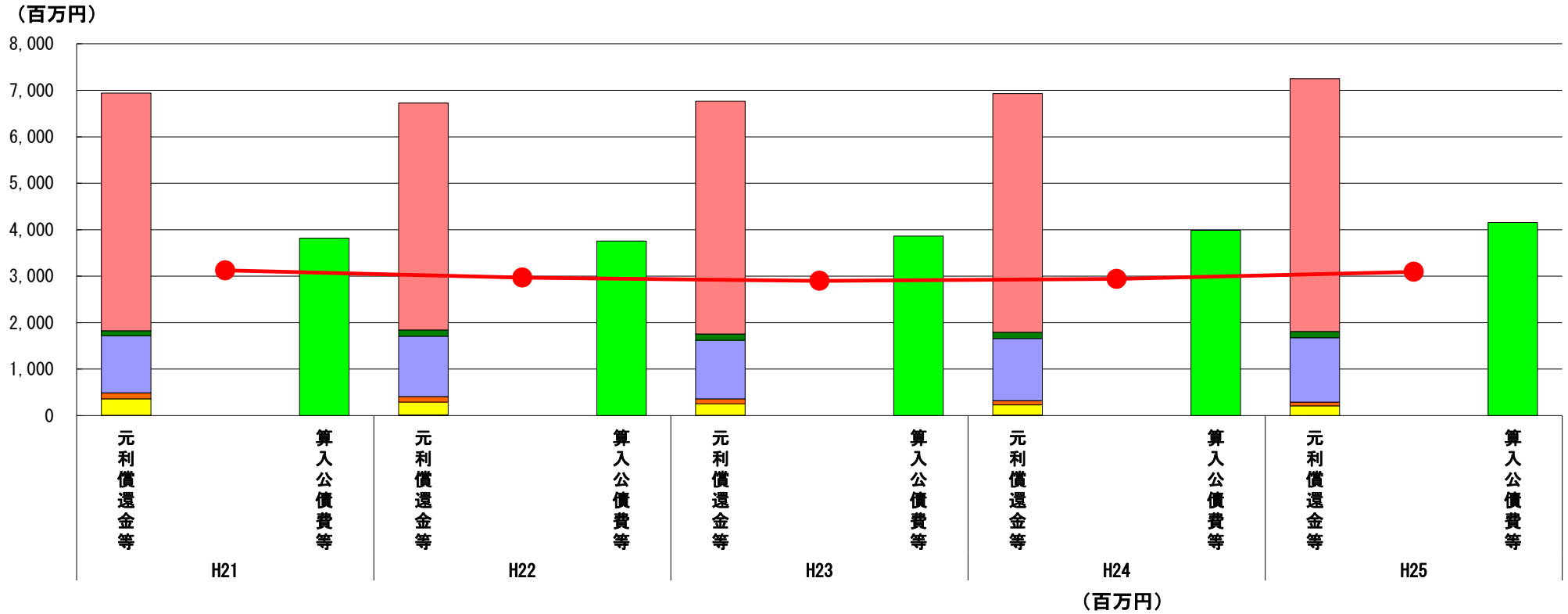
一般会計では新市建設計画登載事業の進捗による合併特別債の元利償還金の増加や震災復興特別交付税が減少したことにより黒字額が減少した。今後も合併特別債の元利償還金の増加に伴う公債費の増が想定されていることから引き続き新経営戦略プログラムに掲げる歳出入改革等の対策等を着実に実施し、財政の健全化に努めていく。

※平成26年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体ごとの決算に基づく連結実質赤字比率を算出していない団体については、グラフを表記しない。

(7) 実質公債費比率（分子）の構造（市町村）

平成25年度

新潟県三条市



分子の構造		年度				
		H21	H22	H23	H24	H25
元利償還金等 (A)	元利償還金	5,113	4,881	5,011	5,137	5,439
	減債基金積立不足算定額	-	-	-	-	-
	満期一括償還地方債に係る年度割相当額	107	133	133	133	133
	公営企業債の元利償還金に対する繰入金	1,231	1,300	1,260	1,334	1,386
	組合等が起こした地方債の元利償還金に対する負担金等	130	118	110	92	83
	債務負担行為に基づく支出額	353	277	245	222	209
	一時借入金の利子	7	14	7	11	0
算入公債費等 (B)	算入公債費等	3,818	3,754	3,866	3,989	4,157
(A) - (B)	実質公債費比率の分子	3,123	2,969	2,900	2,940	3,093

分析欄

低金利への借換えにより長期債利子の軽減を図ったことや経常的投資事業費に対する市債の発行を抑えていることなどにより、公債費負担適正化計画に定めた通りの改善が図られているが、合併特例債の償還により公債費が増加している。災害復旧事業に充当する市債発行による元利償還金の対応も含めて、実質公債費比率の推移に注視しつつ対応していく必要がある。

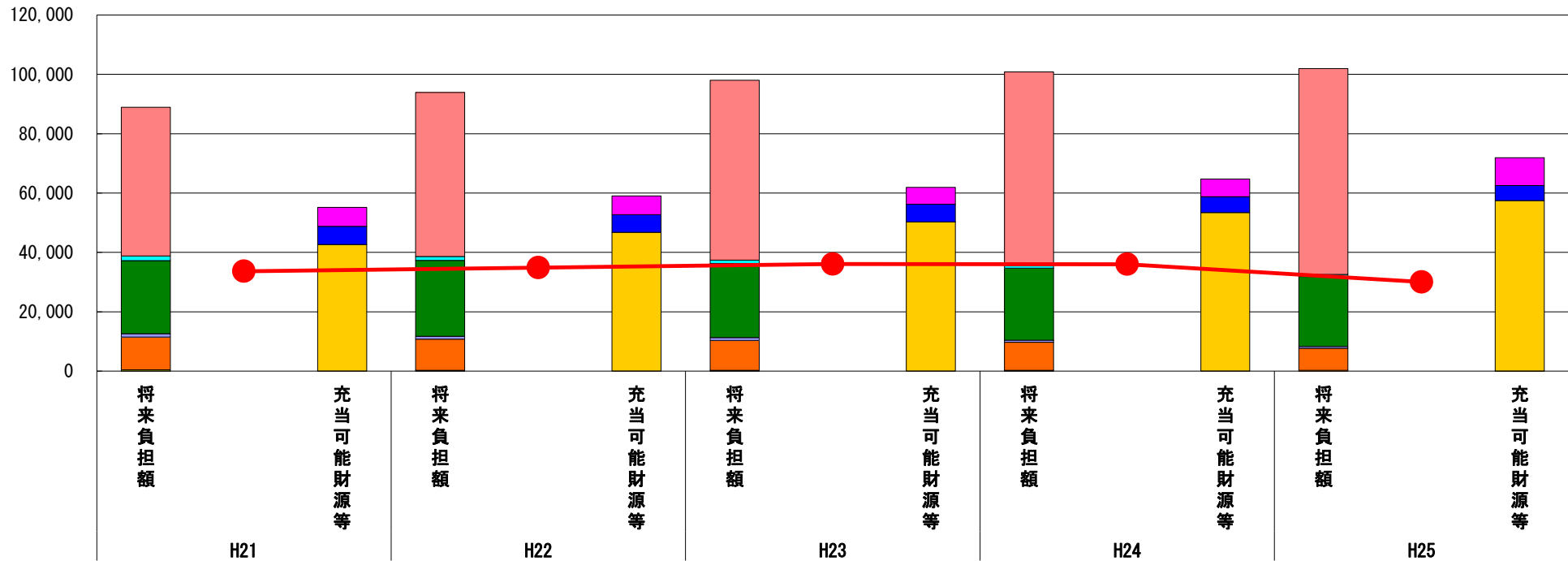
※平成26年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体ごとの決算に基づく実質公債費比率を算出していない団体については、グラフを表記しない。

(8) 将来負担比率（分子）の構造（市町村）

平成25年度

新潟県三条市

(百万円)



(百万円)

分子の構造		年度	H21	H22	H23	H24	H25
将来負担額 (A)	一般会計に係る地方債の現在高		50,046	55,192	60,562	65,131	69,351
	債務負担行為に基づく支出予定額		1,584	1,342	1,111	947	784
	公営企業債等繰入見込額		24,580	25,591	25,002	24,246	23,531
	組合等負担等見込額		1,147	967	950	759	570
	退職手当負担見込額		11,096	10,443	10,061	9,453	7,509
	設立法人等の負債額等負担見込額		418	320	284	258	237
	連結実質赤字額		-	-	-	-	-
	組合等連結実質赤字額負担見込額		-	-	-	-	-
充当可能財源等 (B)	充当可能基金		6,441	6,307	5,687	5,978	9,409
	充当可能特定歳入		6,101	5,920	5,926	5,391	5,088
	基準財政需要額算入見込額		42,662	46,766	50,269	53,394	57,427
(A) - (B)	将来負担比率の分子		33,667	34,862	36,088	36,029	30,057

分析欄

退職手当率の改正により退職手当見込額が減額したことから将来負担額が減少し、余剰金を財源とした財政調整基金への積立等により充当可能基金が増加したことに加え、合併特例債等の増加により基準財政需要額算入見込額が増加したことに伴い将来負担比率が改善された。

地方債の現在高の増加は、新市建設計画登録事業の実施に伴う借入れが続いていることが主な原因となっている。将来負担額の増加は今後も予想されるが、新経営戦略プログラムや公債費負担適正化計画に基づき、新市建設計画登録事業の見直しなどにより、起債発行額を抑制していく。

※平成26年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体ごとの決算に基づく将来負担比率を算出していない団体については、グラフを表記しない。